

# 阿蘇の草原は先人たちが 守り継いできた“たからもの”

阿蘇の風景の代名詞ともいえる草原。一見自然に思える光景は、約千年にわたり、人々の手によって維持されてきたものです。その結果として、多様な草原生態系や豊かな景観が生まれました。人の手によって創られた“阿蘇の草原”は、管理を止めてしまうと林や藪になってしまいます。日本一の面積となる約2,200haの草原は、人が自然と共に生きてきた文化の象徴となっているのです。



## Q1

阿蘇の草原は  
なぜ大切なの？

### A1. たくさんの生物の生息地

阿蘇の草原で見られる植物は、希少なものを含め約600種。野生動物や野鳥、昆虫が生息できる環境を育み、“チョウの楽園”と呼ばれるほど多様なチョウが生息しています。



絶滅危惧種のオオルリシジミ

草原の中に咲くハルリンドウ

### A2. 二酸化炭素を吸収する

草原の土壌は野焼き後の炭と野草の根の働きで、野焼きによって大気中に放出されるよりも多くの二酸化炭素を地中に吸着する働きがあり、温暖化防止にも貢献しています。



### A3. 九州の“水がめ”の役割

草原は雨を蒸発させる量が少なく、森林よりも地中に水を貯える機能が高いとされます。阿蘇の草原でしみ込んだ地下水は、白川や筑後川など6河川の源流となり、福岡市や熊本市などの生活水を支えています。



あか牛が草を食べることで草原を守る役目も担っている

### A4. 草資源の利用

草原の草は、牛馬の飼料として利用されています。また、質の高い建材でもあり、現在でも歴史的建造物のかやぶき屋根の材料として全国に供給されています。



野焼き⇒牛馬の放牧⇒採草のサイクルからなる持続的農業は、世界農業遺産にも認定されています



## Q2

草原の維持は  
どうやって行う？

### A. 人の手によって守られている

阿蘇の草原は野焼きや牛馬の放牧、採草のサイクルを繰り返し、千年以上、人の手によって守られています。野焼きは、草原を燃やすことによって森林化を防ぎ、動植物の病害虫を駆除するなど大切な役目があります。野焼き作業には多くの人手が必要ですが、畜産農家の減少や高齢化等により存続が難しくなっています。今後も草原を維持していくためには、ボランティアをはじめ多くの人たちの理解やサポートが必要です。



広大な草原を一言に焼く野焼き